

令和6年度 第2回麒麟のまち創生戦略会議 議事概要

日時：令和6年11月11日（火）午後4時30分～5時15分

場所：浜坂多目的集会施設 2階 多目的ホール（新温泉町）

出席者：鳥取市長、鳥取市副市長、岩美町長、若桜町長、智頭町長、八頭町副町長、香美町長、新温泉町長

1 開 会 鳥取市長あいさつ

2 議 題

(1)「日本遺産・麒麟のまち推進協議会」令和6年度進捗状況報告および令和7年度事業計画・収支予算（案）について・・・・・・・・・・・・・・・・資料1

＜智頭町長＞

令和6年度実績の中で、パンフレットやアプリ等をつくっているが、つくっただけでは意味がない。売っていかないといけない。インバウンド獲得ということであれば、海外に売り込みに行き、セットで観光事業者に売り込むなど宣伝して回ることが大事だと思う。

＜事務局＞

来年度、DMOの事業計画では、米子からの直行便がある台湾へ4社、香港へ5社、海外商談会に参加予定です。

＜智頭町長＞

中国や韓国はどうか。岩美町は中国と、若桜町や八頭町は韓国と交流しており、鳥取市も中国や韓国と交流があると思うが、それらを踏まえて考えてはいないのか。

＜事務局＞

予算の中で令和7年度の商品造成・ブランディング事業を進めていくということですので、DMOへ中国や韓国も含めて考えていただくよう伝えます。

(2)麒麟のまち観光局 令和6年度事業の進捗状況及び令和7年度事業計画・予算（案）について・・・・・・・・・・・・・・・・資料2

＜岩美町長＞

資料2の1ページ目、令和6年度の進捗状況のマーケティング事業について、WEBアンケートの集計結果はいつ頃教えていただけるか。また、地域別の結果をお持ちであれば教えていただきたい。

＜事務局＞

アンケートは令和7年3月末まで実施しております。毎年5月頃に実施している麒麟のまち創生戦略会議の際に集計結果をお示しできたらと思いますが、早ければ令和7年4月頃には、各町へお届けすることが可能だと思います。市町ごとの情報を含めた検証につきま

しては、9月末時点では、我々も件数しか聞いておりませんが、例えば立ち寄った場所や圏域への訪問回数とその消費額などの情報も含めた結果が、令和7年5月頃の会議では少なからずお示しできると思います。

《岩美町長》

旅行商品造成の部分で、先ほどの質問でインバウンド向けのところは来年度の内容が少し見えてきたところであるが、国内向けとして、3DMO連携による山陰海岸ジオパーク周遊ルート造成事業の長期滞在向けコンテンツ6件、モデルルート3件について、合計9件の商品造成が出来た、という理解でよろしいか。

《事務局》

この6件、3件の商品造成について、令和6年度にかけて商品造成を行っていくということが書かれており、商品造成が出来たというよりは現在取り組んでいるところになります。ただ、3DMOの取組みは3年目になりまして、初年度の令和4年度は、国内向け商品をつくりWEBサイトで個人向けの商品として販売しておりました。売れ行きについて確認したところ、国内は令和4、5年度はまだコロナ禍の影響があり、また長期滞在型ツアーを組んでいる関係で、つくった商品が城崎や天橋立など3DMOの中でも東側の方の滞在に取られており、実質の数字としてあがっていないという課題がございます。

《岩美町長》

そこは、麒麟のまち圏域の体制が弱い部分であると思う。そこをどう商品化して売っていくか、来年の事業計画の中でぜひ検討いただけたらと思う。

《新温泉町長》

鳥取砂丘には年間何万人くらい来るのか。また、外国人はどうか。

《事務局》

計測器からはじき出した数字によりますと、だいたい年間120万人です。計測器では外国の方かどうかまでは識別できませんが、例えば、砂の美術館では多いときで年間50万人ほど訪れますが、令和元年度頃ではインバウンド比率は全体の10%も無いと思います。令和6年度の4月から9月における市内の宿泊者数のうち外国人の比率は、前年同期比3千人ほど多く、1万5,730人という数字が出ております。

《新温泉町長》

圏域1市6町の観光入込客数はどうか。

《事務局》

令和6年9月末時点での数字は掴んでおりませんが、本連携事業とは別の事業において圏域全体の観光入込客数を取りまとめしており、各市町の数を足し上げて検証できる仕組みにしております。

(3) 麒麟のまち圏域における鉄道利用促進について (報告) 資料3
(質疑・意見等なし)

(4) 第2期因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏ビジョンの取組状況等について

①連携中枢都市圏事業の進捗状況について（令和6年度9月末時点）・・・資料4-1

（質疑・意見等なし）

②因幡・但馬麒麟のまち太陽光発電設備等共同購入事業について（報告） 資料4-2

＜若桜町長＞

登録をして見積をしていない人がかなりいらっしゃるが、そういった人はどういう位置付けになるのか。また、来年度以降も同様のスキームでやっていただけるのか。

＜事務局＞

登録された方は本事業に興味を持っていただいた方ということになり、その中から、実際に設置をされたいと思った方が見積を求められ、その見積を踏まえて実際に契約を結んでいく流れとなります。従って、位置付けとして、興味を持たれて検討された方というのが登録者数、その中から更に、実際に設置に取り組みたいとの思いで見積を求められた方が見積依頼数ということになります。

本事業は今年度から始めた事業であり、来年度には事業成果が現れてくると考えており、本事業自体は経費負担がなく自治体側の予算がほぼかからない事業ですので、来年度も同様に進めてまいりたいと思います。

＜若桜町長＞

来年度も同じようなかたちで公募、あるいは1市2町からもう少し広げていくのか、また、改めて町民向けに再度公募していくのかなど、その辺りはいかがか。

＜事務局＞

本事業の契約自体が、圏域全体を視野に入れての契約を結んでおりますので、来年度におきまして、今回参加されておられない自治体様につきましても、一緒にできる内容になっております。ぜひ検討いただき、来年度参加いただけるようでしたら、一緒になって本事業を進めてまいりたいと思います。

3 その他 なし

4 閉会